

「道路特定財源」維持の意見書を 自公が提出。これに本会議で反論。

意見書の内容

新小金井街道や東八道路の延伸など府中でも道路の早期整備が望まれているが、道路特定財源の暫定税率が廃止されると歳入不足となり、道路整備が困難になるばかりか、他の行政サービスも低下するので、関連法案の成立を強く要望する、という内容。府中市議会から国の関係機関に宛てて出すもの。

反対意見

私はこれに対して、まず、これは国の根幹に関わる問題であるから、府中に損か得かで議論すべきものではないと述べました。その上で、次の3点を理由に反対しました。

- ①暫定税率の期限切れと合わせて別の措置(国直轄事業負担金廃止など)がとられれば**府中への影響はない**※。
※影響がないことについては、予算委員会での財政課長の答弁で確認できた。
- ②膨大な借金を抱える今の日本で、集めた税金が**自動的に道路につき込まれるしくみ**を続けていいのか。一般財源化して、使い道を国会でちゃんと議論すべきだ。
- ③暫定税率が無くなれば、結果的に**ガソリンの価格が下がる**。苦しい家計の支えにもなり、経済効果もある。

結果としては、自公の多数で可決されてしまいました。15 vs 14 というきわどいものでした。あと1議席変われば、議会の様子も変わります。



府中市議会議員・府中の元氣

杉村康之



ご意見ご声援をよろしくお願いします！

TEL◆042-335-0097 / FAX◆042-361-9856

Email◆sugimura@sea.sannet.ne.jp

URL◆http://www.fuchu21.gn.to

郵便振替◆00150-1-102251(フリーダムネット)

銀行口座◆みずほ銀行府中支店 貯 4572242

府中一新、日本一新。

府中の元氣

フリーダムネット

No.30 2008.4

< 3月議会報告② >

「見える市政」の実現に向けて

3月議会の後半は予算委員会です。一般質問では情報公開をテーマにしましたが、予算委員会でも「見える市政」をテーマとして発言しました。

府中市では、この4月からの組織変更で、総務部と財務部が統合され、政策総務部ができました。権力の集中だと危ぶむ声も議会内にありますが、私はそのメリットを積極的に活かすべきと、評価をしたいと思います。最大のメリットが、部長の答弁にもありましたが、「行政評価を予算編成に最大限反映していく」ことにあります。

施策や事業の目標を設定し、その成果を検証し、なおかつ、それらを市民に見せる。このことが「見える市政」には非常に重要で、部長の答弁からは前向きな姿勢を感じました。

しかし、細部のこととなると疑問に思うことが度々あります。それに関連して、今回の予算の質疑の中から3つご報告いたします。今後は、上記のような前向きな姿勢を各課に浸透させていかなければならないと強く感じます。

平成 20 年度予算特別委員会の質疑から

杉村 総務部で事務事業評価を行い、財務部で「決算書」や「施策の成果」を作成している。どちらも行政評価の一環だが、それぞれがバラバラに行っているという印象をもつが。

総合計画担当主幹 関連付けるよう調整していく。

杉村 調整ではなく、統合してほしい。各課から上がるデータを基に、それぞれが別の資料を作るのではなく、できれば一つにまとめるのがいい。少なくとも、一つの流れの中で関連付けてやってほしい。総務部と財務部が統合されるのだからよい機会だ。

①決算と行政評価の連動を

行政評価の結果が次の予算に反映されるためには、「予算→決算」の流れと「計画→評価」の流れが連動していなければならないと考えます。つまり、予算・決算の審議によって事業がチェックされますが、一つ一つの事業の積み重ねによって、中長期的な課題がどこまで達成されたのか、関連付けて考える必要があるということです。

その点をチェックするのが議会の役割でもあります。行政としても関連付けをシステム的に行うことで、より合理的な行政運営が可能になると思います。財務部と総務部の統合を機に、2つの流れを統合し、合理的でわかりやすい評価システムができるよう、見守ってまいります。

杉村 校庭の芝生化に向けて試験的に導入されているが、住吉小と3中での検証結果は？

総務課長補佐 校庭の砂が外に出ないように芝生を入れた。

杉村 「府中市環境行動計画」の重点施策の一つに校庭の芝生化のモデル校選定とある。それに向けた試験的導入のはずだったが、その流れの中でどんな結果があったか、と聞いている。

総務課長補佐 これといって特にない。

杉村 モデル校選定に向けた試験的導入ということからすると、住吉小や3中のような小さな区画でやって意味があるのかと、導入当時から疑問はあったが、やるというので、見守っていた。その結果が「特にない」ということだ。計画に基づいた一連の流れが全く意識されていないのじゃないか。ちゃんと一貫性を持ってもらいたい。

②計画を意識した取り組みを

「府中市環境行動計画」の10の重点施策の一つに「モデル校を選定し校庭の芝生化(草地化)を進める」とある。しかし、「特にない」との答弁からは、「計画」のことなどまるで意識されていないような印象を持ちました。

芝生化が必要ないと考えているなら、初めから計画に載せるべきではないし(今から削除もできる)、載せるのであれば、それを達成するために真剣に取り組むべきなのです。しかし実際はそのどちらでもなく、「計画」がいい加減に扱われていると言わざるを得ません。そのようなことでは、例えば、ごみ減量50%を達成するにはごみ箱撤去が必要などと言われても、説得力がありません。あたりまえのことですが、計画を意識し、一貫性をもって各事業が行われるよう、注視してまいります。

杉村 耐震改修促進計画ができた。耐震化率の目標が90%に設定されたが、現状の耐震化率は？

建築指導課長 市内住戸数11万3600戸のうち、9万300戸が耐震済なので、耐震化率は79.5%。

杉村 90%を達成するには、何戸の調査あるいは耐震化が必要か？

建築指導課長 計算して頂ければ出ると思うが、1万2000戸ぐらいか。そのうち自然の建替分を引くと実現不可能な数字ではないと思う。

杉村 ぜひ、目標をハッキリと把握しておいてほしいと思います。

③計画を実現するための具体策を

一昨年の9月議会で住宅の耐震化を取り上げ、19年度に耐震改修促進計画ができました。その中で耐震化率の目標値が90%と明記されました。次に考えるべきことはそれをどうやって達成するかということになるわけですが、当然、調査・改修すべき住戸数が把握されていてもよいはずですが、議会で聞かれてから調べだすというのが今の行政のテンポです。

※後日、担当課から報告があり、目標住戸数が2990戸と確認された。

18年度末住戸数実績: 113600戸 耐震済戸数: 90300戸
27年度末住戸数予想: 131100戸 増加分(=新しいので耐震済): 17500戸
未調査数: 131100戸×90% - (90300戸+17500戸) = 10190戸
27年度末までの建替住戸予想数: 7200戸 10190戸-7200戸= **2990戸**

「見える市政」に向けて、行政評価のしくみづくりが進んでいます。ただどんなしくみも、人が意識的に活用しなければ効果を発揮しません。よい効果を生み出すよう、議員としての役割を果たしていきたいと思っています。